

## 音楽科の学習

### 1 教科の目標（音楽の授業で学ぶこと）

#### ①音楽を深く知って、もっともっと好きになる

歌ったり、弾いたり吹いたり、聴いたりしながら、音楽の楽しさ、美しさを感じ取ろう。

#### ②聴く力、表現する力を身につける

歌も楽器も、鑑賞も、技術や力が必要です。その基本を、身につけよう。

#### ③感じとる心をみがき、人間としての心を成長させる

美しさを求め感じとる心と、人の幸せや痛みを感じとる心は、同じものです。

音楽の体験を通して、それをみがいていこう。

### 2 学習のしかた（授業の時の約束）

- ・歌う時は必ず声を出す。
- ・器楽の実技の時には素早く指示通りに反応する。
- ・それ以外については、他の授業と同じです。

**音楽の授業では、「歌や楽器が上手になること」が**いちばんの目的、ではありません！！****

**音楽の授業は、基本的には「体験学習」だと思ってください。**

**もちろん、たまには(合唱コンクールとか)「本気になって上手になることを目指す」こともあります。**

**でも、逆に、「といてあえずこの楽器の音を出してみよう」というような学習もあります。**

**ちょっとスケートをやってみたら、とっても難しかった！ 自分では立ってるのさえやっとなかった。…その体験があれば、フィギュアスケートの○○選手の演技のすばらしさが、やらなかった時の何倍も何倍もわかるでしょう。**

**つまり、「体験」を通して、「感動できる心」が育つのです！**

**これを、情操教育、といひます。情操、つまり豊かな心が育つことで、人の幸せや痛み、悲しみを感じ取る心も育ちます。感謝の心も育ちます。音楽は、そういう目的を持った、大切な教科なのです！**

### 3 学習予定

学期	月	学習内容	アドバイス どのような力を身につけるか	評価方法 評価内容（観点）
1	4	音楽学習ガイダンス／声づくり 曲想を生かして表現を工夫しよう パートの役割を理解して歌おう 楽器の音色を味わって聴こう	歌唱にふさわしい声をつくる 歌詞や拍子、曲想を意識する 各パートに役割があることを理解する 楽器特有の音色に耳を傾ける	ワークシートと活動による評価 ワークシートと活動による評価 活動および実技テストによる評価 ワークシートと活動による評価
	5			
	6			
	7			
	7			
2	8	日本の歌の美しさを表現しよう 豊かな響きの合唱をつくろう 合唱コンクールステージ発表 曲のしくみを理解して鑑賞しよう オペラの名曲を味わおう 日本の音楽	日本の音楽の美しさを知る 混声合唱でパートの特徴を生かす ステージ発表に挑戦 音楽の構造を理解する 様々なジャンルの音楽を知る 伝統的な音楽に触れる	ワークシートと活動による評価 活動および実技テストによる評価 活動および実技テストによる評価 ワークシートと活動による評価 ワークシートと活動による評価 ワークシートと活動による評価
	9			
	10			
	11			
	12			
3	1	世界の音楽 卒業式を音楽で盛り上げよう 楽器の特徴を生かして表現しよう	世界の諸民族の音楽に触れる 合唱で卒業生への感謝を 器楽の発表体験	ワークシートによる評価 活動による評価 ワークシートと活動による評価
	2			
	3			

※上記は主な学習活動の予定です。実際にはもっといろいろな活動を通し、音楽を学んでいきます。

#### 4 学習教材

- 教科書 「中学生の音楽2・3上」「中学生の器楽」 (教育芸術社版) …学校で配布されます
- ファイル (プリントをとじる) …学校で配布されます (1年生のときに購入してあるもの)
- アルトリコーダー (音楽室保管)
- 筆記用具

#### 5 評価のポイント …難しく考えず、授業の流れにしたがってしっかり活動すればだいじょうぶ!

観点	内容	評価の方法
音楽への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に意欲的に取り組むことができる。</li> <li>・音楽によって生活を豊かにしようとする気持ちを持つことができる。</li> <li>・幅広い音楽に興味を持とうとしている。</li> <li>・楽器に興味を持ち、意欲的に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての音楽活動(歌、器楽、動作、鑑賞)への参加状況</li> <li>・発言や文章表現</li> </ul>
音楽表現の創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽の特徴を、「理由」をふまえてとらえ、それを表現活動(歌、器楽、創作など)に生かすことができる。</li> <li>・自分のとらえた音楽のイメージを実際の表現に結び付けることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱表現活動</li> <li>・器楽表現活動</li> <li>・指揮や創作などの活動</li> <li>・実技テストや発表</li> </ul>
音楽表現の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージした音楽を、実際に表現するために必要な力を身につけている(正しく歌える、演奏できる、創作できる)。</li> </ul>	
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞する音楽の特徴を、「理由」をふまえてとらえ、その良さや美しさを感じ取ることができる。</li> <li>・国や時代による音楽の特徴(「○○風」)をとらえて音楽を鑑賞することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての音楽活動</li> <li>・発言や話し合い</li> <li>・ワークシート</li> </ul>

#### 6 学習のポイント

- 大きな声と大きな音が、まず出発点。
- 表現(歌、器楽)では、「うまい」こと、「正しい」ことよりも「伝えよう」とすることが大切。
- 自分の出す音に、意識して耳を傾けてみよう。
- 「合わせる」という体験を大切にしよう。
- 好き嫌いなく音楽を聴こう。
- 一つの音楽を、様々な視点でとらえるよう意識してみよう。



一生懸命な姿は、美しい！！



心が動けば、生き方も変わる！！